

平成23年12月

徳永志保 学位論文審査要旨

主査 小川敏英
副主査 池口正英
同 村脇義和

主論文

Assessment of ablative margin by MRI with ferucarbotran in radiofrequency ablation for liver cancer: comparison with enhanced CT

(フェルカルボトラン併用MRIを用いた肝腫瘍ラジオ波焼灼療法での腫瘍周囲焼灼帯の評価；造影CTとの比較)

(著者：徳永志保、孝田雅彦、的野智光、杉原誉明、永原天和、植木賢、村脇義和、柿手卓、山下栄二郎)

平成23年 The British Journal of Radiology 掲載予定

審査結果の要旨

ラジオ波焼灼療法は肝細胞癌の治療として広く行われているが、その治療効果判定は、焼灼療法による炎症反応のため、通常1ヶ月後の造影CTで評価される。MRI造影剤フェルカルボトランはクッパー細胞に取り込まれるため、肝臓はMRIT2強調像で低信号となり、腫瘍は高信号となる。本研究ではフェルカルボトラン投与後に焼灼療法を行いMRIT2強調像を撮影すると腫瘍は高信号、焼灼された周囲肝は低信号となることを利用して、この低信号域が焼灼帯として評価できるか、現在の標準評価法である焼灼後1ヶ月の造影CTと比較し、その有用性を明らかにした。本評価方法を用いるとラジオ波焼灼療法後早い時点での評価が可能で、肝腫瘍治療の点で明らかに学術水準を高めたものと認める。